



近年の原木需要に対する林業事業体の対応状況

林業試験場 道南支場 津田高明

背景と目的

製材工場では原木が不足している

- ✓ 原木価格を上げて集めざるを得ない。トドマツ、カラマツとも径14-18cmはずっと不足(民有林新聞H31.3月)
- ✓ 合板原木の値上げに伴い、製材原木も1,000円/㎡以上高くなった(民有林新聞H31.2月)

原木不足の要因は？

■素材生産量は減っている？⇒増えている！

- ✓ H25: 400万㎡→H29: 460万㎡ (北海道林業統計)

■丸太の輸移出や消費量の増加？⇒バイオマス利用以外は横ばい

- ✓ 輸移出 30万フレートton前後で推移(図-1)
- ✓ 原木消費 180万㎡で推移(北海道林業統計)
- ✓ 未利用材利用量 H25:10万㎡ →H29:70万㎡

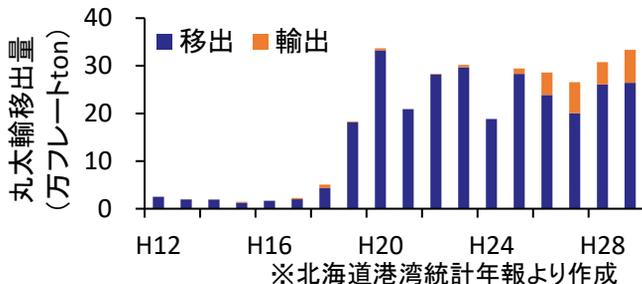


図-1 原木輸出・移出量の推移

流通の問題？

林業事業体は原木供給にどう対応している？

道南・道央・道東の森林組合(6組合)、民間会社(2社)に、平成30年に聞き取り調査をしました。

【聞き取り内容】

- 伐採計画の策定(伐採方法、需要情報元)
- 需要への対応(対応時期、出荷までの期間)
- 丸太の販売先・経路(道外移出等)

内容と結果

□ 伐採計画の策定方法

- ✓ 製材工場を所有する事業体では、主伐をより積極的に選択(間伐適期の林分の減少、工場在庫の確保)
- ✓ 自社工場があれば在庫状況から、なければ道森連や商社から需要情報を取得

□ 需要への対応方法

- ✓ 伐採は計画通りに進め、山土場の造材丸太を選別して出荷が一般的
- ✓ 雪融け期を除いて運材している業者が多く、造材～出荷までは1ヶ月

□ 丸太の販売先・経路

- ✓ 製材工場を所有する組合は適木を自社消費

製材工場の所有有無により需要への対応が異なる

林業事業体	伐採樹種	主な伐採方法	原木需要の情報元	需要への対応	造材後納品までの期間
A組合(道南)	スギ	間伐	道森連, 商社, 他社工場	造材丸太から選別	1ヶ月程度
B組合(道央)	カラマツ	主伐	自社の製材工場の原木在庫, 道森連	造材丸太から選別	1ヶ月程度
C組合(道東)	カラマツ	主伐	自社の製材工場の原木在庫, 道森連	造材丸太から選別	1ヶ月程度
D組合(道東)	カラマツ	主伐	自社の製材工場の原木在庫, 道森連	造材丸太から選別	1ヶ月程度
E組合(道東)	カラマツ	主伐	自社の製材工場の原木在庫, 道森連	造材丸太から選別	1ヶ月程度
F組合(道東)	カラマツ	間伐	道森連, 他社工場	造材丸太から選別	1ヶ月程度
G会社(道央)	トドマツ	間伐	商社, 他社工場	造材丸太から選別	1ヶ月程度
H会社(道東)	カラマツ	間伐・更新伐	自社の製材工場の原木在庫, 他社工場, 木質バイオマス発電所	造材丸太から選別	1ヶ月程度

※緑色の林業事業体: 自社で製材工場を所有

自社工場	道外移出		道内		
	有無	販売経路	大径木(30cm~)	中径木(14~28cm)	販売経路
あり(5社)	1	商社	A社(5)	自社工場(5) 他社工場(1)	他社工場へ直接販売(1)

なし(3社) 2 商社 A社(2), 他社工場(1) 他社工場(3) 道森連(2), 商社(1), 直接販売(3)

※カッコ内: 回答数

今後の展開

全道の森林組合・林業事業体を調査し、状況把握します。